

○3 番 （中塚礼次郎） 私は、さきに通告しました 2 問について質問をしたいと思いま
す。

最初の質問であります、「耕作ができなくなった水田の耕作維持管理対策を」
ということで質問いたします。（チャイムあり）

今、農業耕作地の荒廃化が全国的に大きな問題となっており、農業行政の重要
課題となっています。特に水田の維持管理は、耕作者の高齢化と後継者不足によ
り、一層深刻です。

連日、マスコミ報道で流される米問題、深刻な米不足による昨年比 2 倍にも及
ぶ価格高騰と米農家が激減し生産基盤が急速に崩れているという直面する二重の
危機を招いた最大の責任は、歴代自民党農政にあると指摘されています。米の消
費が毎年減ることを前提に農家に減反、減産を押しつけ、供給量を不足させ、そ
の結果、2024 年 6 月までの 1 年間の米需要量に対し供給量が 44 万 t も減少し、
米価格高騰につながりました。

また、民主党政権が創設した 10 a 当たり 1 万 5,000 円の所得補償を 2018 年に
全廃し、年間約 1,500 億円の所得を全国の米農家から奪うなど、米生産への支援
を切り捨ててきたことも農家減少、耕作地放棄に拍車をかけてきたと言わざるを
得ません。

そこでですけど、中川村での水田耕作放棄地の現状について伺います。

○産業振興課長 平成 22 年、それから令和 2 年の農林業センサスのデータ、こちらを基に比較し
ますと、村内の状況ですが、耕作放棄地面積 21ha 増加したことに対して、水
稲作付面積が 18ha、水稻経営農家数 155 戸が減少し、水田、水稻経営戸数の減少
が放棄地を増加させる一つの要因となっているようであります。

近年の村内の耕作放棄地の現状ですが、農地の現況の現地確認、それから農地
台帳のデータ、こちらを整合する必要があるまして、水田に特化した面積把握、
これについては行っておりませんが、維持管理のみの農地を含め、増加あるいは
高止まりの状態であるというふうに認識しております。

○3 番 （中塚礼次郎） ただいま課長のほうから中川の現状について報告がありました。
近年、私の集落とか近隣の集落からは、耕作できなくなって困っているという
ふうな相談もあるということで、私も対応して、それを何とかするというような
こともしてきましたが、大変大きな問題になっておるというふうに感じます。

水田耕作を続けられなくなった農家は年々増え続けて、それらの水田は村内と
飯島町の大規模農家に引き継がれて維持管理がされていますが、昔はおやじとお
ふくろが農地を守り、息子が勤め人になり休みの日や農繁期に農作業の手助けを
する、専業農家を除き、家族農業がほとんどでした。

今の家の後継者はいても水田後継者となる人が大きく減少している要因は、米
作りはもうからないことが最大の要因と言えます。

耕作、維持管理ができなくなった水田は、現状、先ほども言いましたように、
多くが大規模農家に引き継がれていますが、大規模になれば作業効率が最も重視

され、大型農機などの導入などにより水田面積や耕作上での条件がよい耕作地が
優先されます。

問題になるのは条件の悪い中山間の水田の維持管理です。傾斜地でない水田は
畦畔の管理は容易ですが、問題となるのは畦畔を含めた土手の管理です。草刈り
作業の現状は、傾斜面であるため土手が大きく、草刈りの面積も多く、これを年
間、秋までに 4 回～5 回やらなければなりません。これらの支援策として補助事
業も導入され、補助も受けていますが、加えて小面積の水田の耕作、維持管理へ
の引受者が問題となっている現状があります。

耕作することができなくなった水田の耕作、維持管理を現状耕作地に加えて受
けてもらえる農家を支援する対策が農地を守り、維持管理していくために必要と
いうふうに考えますが、この点について考えをお聞きます。

○産業振興課長 まず、中山間地の水田の維持、持続可能な農業を推進するために現在実施して
いる施策について申し上げます。

国・県補助事業の中山間地域等直接支払交付金、また多面的機能支払交付金を
現在実施しておりますが、農地の維持管理の省力化など持続可能な維持管理体制
の構築、水路や農道など耕作に係るインフラの整備による担い手——大規模農家
になりますが、担い手の営農条件の改善につながっているであろうというふうに
認識しております。

一方、村単事業としましては、農業担い手支援の補助制度、それから小規模農
家営農継続支援制度、また耕作条件等改善事業を実施しスマート農業技術の新機
能を搭載した農業機械、スパイダーモアなど省力化機器の導入、それから耕作地
及びその周辺の条件の改善を支援し、中山間地における農業経営の安定化を図っ
ています。

大きな課題となっている高齢化、後継者不足——特に中山間地になりますが、
それにつきましては、稲作に限らず、営農継続、農業、農地の維持を難しいもの
としております。

この課題の解決に向けては、行政、現農家のみの取組だけでは困難であり、現
在、国の直接支払制度、新規就農制度などを活用しつつ新たな担い手の育成に取
り組んでいますが、これに加え、地域計画を基盤とした地域が一体となった取組
もさらに進める必要があると考えております。

特に、営農、農地の引受手——担い手になりますが、引受手となる農家を中心
に、国、県や村が実施する支援策の実効性の精査、改善のための検討を改めて行
い、引受手がより引き受けやすいと感じる環境と成果に結びつく支援の充実が必
要と感じております。

また、農繁期の労働力、いわゆる支え手の確保、加えて各集落営農組織間の連
携も持続可能な中山間地の稲作、良好な営農、農地の維持につながるというふう
に感じております。

○3 番 （中塚礼次郎） ただいま課長のほうから前向きという取組の具体的な内容のお

答えがありました。

大変難題というか、難しい問題があるわけですが、このままほっとくということではできませんので、みんなで知恵を出して、何とか今の水田をいつまでも持続可能として耕作できるような形に持っていけるように最大の知恵を出していきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

続いて次の質問ですが、米不足解決についてということで、増産、食料自給率向上を農政の柱にということで質問をしたいと思います。

米不足の解決は、今、国政の最大の争点となっており、大きな問題となっておりますが、国の問題だからでは放っておけない問題と思い、村行政としての考えをお聞きします。農業を基幹産業とする中川村にとって大変重要な問題を抱えているからであります。

米不足の解決は、十分な備蓄米を確保し、国を挙げて米の増産に、今、踏み出すときです。

ところが、逆に財務省は、政府備蓄米を減らし、輸入米——ミニマムアクセス米を主食に回せと迫っています。

日本農業には、本来、豊かな生産力があり、アジアモンスーン地帯に位置し旺盛な生産力を持つ日本の農地の人口扶養力は1 ha 当たり9人で、ヨーロッパ諸国の2～4倍、アメリカ、オーストラリアなどの10倍強と言われ、水田の力を生かす政策に私は転換すべきだと考えますが、この点について考えをお聞きします。

○村 長 農民運動全国連合会という組織があります、通称農民連といいますけれども、これの2009年6月発行の機関紙「農民」には次のように記されております。

農民連は約10年前から、アジアと欧米の農地の生産力の違いを指摘してきましたが、5月に公表された『食料・農業・農村白書』は、農地1アールあたりのカロリー供給力の国際比較を紹介しています。これによると、日本の供給力が約10万カロリーなのに対し、アメリカは2万8千カロリー、オーストラリアは1万1000カロリーで、ほぼ10分の1。

というふうに書いてありました。それで、

『白書』は採草・放牧地を除いた「農地」だけで比較していますが、採草・放牧地を含めた「農用地」で比較すれば、違いは格段に大きくなります。また、国民1人あたりのカロリー摂取量は、日本が約2500カロリーであるのに対し、アメリカは3700カロリー、ヨーロッパが3500カロリーです。

こういう違いを加味すると、グラフのように日本の農地は1ヘクタールでここにはグラフを示しているところでありますけれども、

グラフのように日本の農地は1ヘクタールで10人近く養えるのに対し、アメリカは0.9人、オーストラリアにいたっては0.1人です。

ということ、恐らく議員さんはこういうデータを見ておっしゃったのかなと思っています。

それで、米とパン製造に適する小麦といった穀物で比較するならば、米こそ日

本の水田地帯で生産すべき作物であると、これは、やはり自然の摂理ではないのかなというふうに私は思います。

ちなみに、今日、ラジオで聞きました。日本人がカンボジアに行っているそうです。それで、プノンペンに住んでいる方なんですけど、最初はお米がなかなか、あちらの長粒種といいますか、いわゆる、何ていうんですか、香料の香りがするお米、何ライスっていったか、ちょっと分かりませんが、ちょっとそんなところで慣れなかったような話をしておりましたが、実は、非常においしい米があると、日本人にも適している米があるという話をしておりました。

それで、その紹介もしていたんですけど、何と、カンボジアの人たちは——カンボジアでは一年に3回米が取れるそうです。だから、そういう意味で言ったら、やっぱりアジアモンスーン地帯の生産力が高い、このことの証明だと思いますし、たしか1人当たり438kgの米を消費するそうです。

今、日本人の消費は50kgだと言われています。もちろん、ほかにいろんなところで、日本は食が豊かという言い方はありませんが、欧米並みの食に変わっていますから、違うところでカロリーは摂取できるということでだんだん減ってきているかと思いますが、それにしても、おっしゃられたとおり、やはり日本という国は米の生産力の高い、そういう、米こそ適した作物というふうなことではないかなというふうに思います。

○3 番 （中塚礼次郎） 今、村長のほうから、私の質問に答えて、詳しくまた説明していただきました。

私は、農家が安心して作り続けられる価格と所得を実現しなければ、国民の食の安全も守られず、農家不足も解決できないと思います。

またともに農業を応援しないのは日本ぐらいだというふうに思います。世界の流れでもある家族農業を応援する農政に転換を、それから、農業予算を増やせ、家族農業を支え価格保障、所得補償をと声を上げることが今必要とふうに考えるわけでありますが、この点について考えをお聞きします。

○村 長 米の市場への供給量につきまして少し遡ってみたいと思います。

昨年8月6日に宮崎県の日向灘沖でマグニチュード7.1の地震が発生しました。それで南海トラフ地震の警戒に入ったわけでありますけれども、このときに、ちょうど8月6日ということもあつてか、一斉にお米を買いに走ったということもありまして、店頭から米が消えるという現象があつたようであります。ちょうど端境期で、お盆を控えていたということで物流の問題もあつたんじゃないかというふうに私も思ったところあります。

2024年産の食用米は、農水省でいいますと、作況は前年を上回る101でありました。そういう発表でありましたので、順調に新米が出回るものと想像はしておつたわけでありますけれども、冬頃から価格が高騰し始めた、たしかそうではなかったかなというふうに思います。

日本で最も美しい村連合のサポーター企業に米匠庵という企業があります。米

匠庵は、御飯をパック加工したり、あるいはお赤飯をそのままパックしたり、熱を加えると食べられる、お餅とかも、いろいろあるんですけど、味つけ御飯も作っている、こういうところで非常に業績を伸ばしているサポーター企業です。

それで、その企業がパック加工の原料米を確保するのに非常に東奔西走していると、これは、今年 2 月初めに理事会をやったときに今どうですかということでお話を聞いたら、東京に行っても、もうとにかく高いし、もう物が無いんだと、ちょっと苦労しているというお話がありました。

それで、想像をいたしますに、市場価格の高騰を見て業者が買い占めをして、保管して市場操作を行っているというのではなくて、2024 年産米について言うと、やはり猛暑等で食用に適する量が不足したことで需要を満たす米が不足しているんじゃないかというふうに私は思うし、そういうふうに考えれば、ずっと続いている高騰も、なかなか出回ってこないということにも説明がつくのかなというふうに思います。

一方、米の価格は下がりっぱなしで、上伊那でも 1 俵——60kg の玄米価格が 1 万 2,000 円を下回るほどまでいっときは下がりました。

2024 年産米は、仮渡し 1 万 6,200 円に調整金を加えて、価格は 2 万 1,000 円、これは消費税込みでありますけれども、になる見込みであるという情報を近頃得たところであります。

米を作り続けるには、再生産費に回すことができる米の価格がやはり必要であります。かつ、ある程度の所得も得られなければ、生業としての、つまりなりわいとしての米作りなど成り立つはずありません。

米作は、規模にもよりますけれども、日本の米作りの基盤を支えているのは小規模な農家ではないかなというふうに思うわけであります。小規模農家でも米作りが持続できる米の価格の最低保障と所得補償、この仕組みをもう考えないと、供給量はこれからは不安定になるのではないかという心配がありますので、私は、今、そんなことを思っております。

○ 3 番 （中塚礼次郎） 今、村長のほうから、詳しい話と、小規模農家、要するに家族農業を支えることや価格保障、所得補償が大変重要だというふうなことで、私は声を上げるべきだというふうに考えておるわけですが、同感に近い返答をいただきました。

危機の原因は、最初の質問でも述べましたが、歴代自民党政権が生産の安定と供給に責任を持たず、農家に減反を押しつけてきたからだというわけですが、農水省がこのほど令和 5 年——2023 年の農業経営体の経営収支を公表しているわけですが、それによりますと個人経営体の米農家の時給は 63 円となります。雇用労働時間も含まれていた 2021 年 2022 年の時給は 10 円でしたが、2023 年の 63 円でも農家の労働が米価にほとんど反映されていないことを意味しており、米を作る農家が激減、米作りを支えている中小農家はこの 20 年で 210 万戸も減り、53 万戸に激減しております。

4 月に政府が決めた食料・農業・農村基本計画は国民を飢餓に追い込む中身と言えます。食料自給率の向上は従来の 45% に据え置いたまま、向上させる姿勢は全く見られません。新たに摂取カロリー目標 1,850 キロカロリーを持ち出して、あたかも自給率が 53% になるかのようにごまかしており、これは食糧不足に苦しんでいた終戦直後の水準と同じと言われ、国民が飢えても構わないというような宣言としか思えません。

農家の減少を食い止め、若い生産者を増やすことは待ったなしですが、しかし、食料・農業・農村基本計画は、49 歳以下の若い担い手数を維持するだけで、増やす気はなく、農地を増やすどころか、減らす目標となっております。

私は、政府が決めた食料・農業・農村基本計画の見直しが、今、農業、農業者にとっても必要だというふうに考えます。

そして、今、米不足で問題になっておるのは——テレビの報道にありましたが、トラクターを使ってデモをやる行動がありました。昔は米価闘争を全農も農協も一緒になってやったんですが、そこには全農もなにも参加できておらんというふうなことで、今、消費者と農業者の、もう対立関係というのがおあり立てられておるような現状で、全農不要論というふうなものが持ち出されてきておるというふうなことで、農家にとっても基幹産業を農業とする中川村にとっても大変重要な問題がますます大きくなっていくことを心配しております。

それで、この基本計画の見直しということが必要だというふうに考えますが、この点について考えを聞きます。

○ 村 長 まず、今、時給 63 円というお話がありました。この数字でありますけれども、農水省が発表しております令和 5 年の農業経営体の経営収支から分析した時給ということだと思います。

もう少し詳しく申し上げますと、まず、米作り農家として作付面積 2.2ha、これを個人の米作り農家がやっていると。それで、この分析の中でいくと、従業員数が 3.5 人、うち家族が 2.4 人、平均年齢が 70.5 歳、それで粗収入が 319 万 4,000 円、所得が 5 万 1,000 円——平均ですよ。それで労働時間が 878 時間、いろいろ割り返していくと時給が 63 円になると、こういう数字だと思います。

もう少し、これ、ちょっと申し上げますと、主業として——なりわいの中心として 9.5ha の作付平均面積の農家でいきますと、これが時給 1,008 円になっています。

それから、20ha 以上の大規模といいますか、もう企業経営かと思いますが、こういう農家は作付平均面積が 33.4ha で時給が 2,476 円という数字が出ております。

農水省はこのことを発表しておりまして、その中の家族経営の一番小規模なところでやっている平均の所得をおっしゃったんだと思います。

それで、改めて言いますけど、2.2ha 平均の米作り農家は時給 63 円というふうになったところでありますが、長野県の最低賃金は 998 円であります。いずれ、

今年また改定されるんだろーと思いますけれども。これにも遠く及ばない。さっき 9.5ha 平均くらいでやっとやっと時給 1,008 円という話でしたから、遠く及ばないわけであります。

それで、じゃ、こんなもうからないものを何でやるんだ、さっさとやめたらいかという単純な話になるかということですが、先ほどの質問にもありましたとおり、はっきり言って中山間地においてはこういう農家ばかりです。

それで、中川村にも、見ていただいたとおり、農事組合法人みなかたもあります。しかしながら、ここの経営っていうのは機械を持ち寄ってお米を作るための共同の植付けとか刈取りが中心で、それをまた農家に再配分していくことを今の経営の柱といいますかにしているところで、決して、これは、何ていいますか、経営体として成り立っているわけではありませんので、個々の農家で、まだ個人で頑張っているところを考えれば、やはりこれも非常に厳しいところだろうなというふうに思います。

ついでに言いますと、平均年齢 70.5 歳といえば私です。そんなことはどうでもいいんですけど。(笑声)

それで、何で単純にならないかといいますと、言いたいことは、そうしたらやめた後の水田の米作りはどうなるかっていうことです。

だから、中山間地の直接支払いとか、多面的機能の維持支払いの対象、今続いていることによって、その中に取り込まれて、この支払いも受けているわけですけど、やめてしまったらぽっかり穴が開きますから、この対象にもなりません。場合によっては集団的な農地の維持も外されてしまいますから、そうなったときにはこういった補助金ももらえないということになりかねないわけであります。

それで、そういう意味で、いわゆる中山間地域の崩壊につながるというおそれが十分あるわけであります。かつて、私は、直接、農事組合法人みなかたの組合長さんに言われました。今、水田農業を中心にちいちゃいところをやっていますけれども、これをやめるっていうことになったら、あんた、集落が崩壊するよと、なくなっちゃうよ、いいのかみたいなことを言われましたけど、まさにそういうことにつながるおそれがあるということだと思います。

それで、先ほどおっしゃったとおり、基本計画——食料・農業・農村基本計画、この見直しっていうのも、やはり日本人の食料をどうするかっていうことと、それに伴う計画を国土を利用してどうやってやっていくかっていうのは食料安全保障の一番根本の問題ですから、これは、やっぱり見直しは検討すべきなんですけれども、まずやらないといけないことは、やはり生活と所得が保障される米の生産者価格、それで、また消費者もまあここだったら納得できるっていう小売価格、この形成をまず急げ、これが大事なことはないかなというふうに思います。

ましてや、今いろいろ、備蓄米が 2,000 円を切って、何だ、消費税を抜いて 5 kg2,000 円を切っているということで、やりやできるんじゃないみたいな話があって、結局、これが、最初に買い占めたではないんですが、売り渡した全農、

入札した全農がこれを出し渋っていると、価格を釣り上げている、こういう論調が一方であるわけであります。

これは、どうもいろいろなところで聞いてみると、全農っていうのは、私もそうですけど、実は、ブドウでもなんでも、ほかの野菜、こういったところについても、肉もそうです。こういったところも全て、全農、農協経由からいくときには、全農は販売組織ですから、いわゆる消費地に向かって、これをうまく頃合いを見計らって出しながら価格を維持し形成してく、こういう仕事が全農でありますので、米だけじゃないわけです。

こういうことをやっている全農ですから、今回の米——ちょっと声が大きくなりますけど——今回の米の流通だけを取って、なかなか出てこないっていうのは、どうも話を聞くと、何ていいますか、いわゆる先に 2024 年産米を順次出していかなきゃいけないし、古古古米、古米ですか、こういったもののブレンドの割合を、表示がまた難しいそうでありますので、そのことも、それを一旦集めて、これを今度は精米にかけて出していくっていうのがすぐにはできないという難しさもあるようであります。

ですから、逆なことを言うと、直接、卸、中間の大規模な卸の皆さんが買い取って、中間を省いて出したことによって早かったっていうことは言えるでしょうけれども、全農は隠していて悪いということは、私は思っておりません。

場合によると、例えば、昔も言いましたけど、私も、直接、何ていいますか、いろいろ、業者さんと直接話をして、いわゆるハウスを作ってくれとかいう話をしたときに、ちょっといろいろ、どうしても農協を通すことになっているんというお話をいただきましたけれども、これに少し憤ったこともあります。

けれども、やっぱり販売する直接的な農家は、まだ直接の販売力のあるところはいいいんですけど、できないところは、やはり全農に頼らざるを——農協から全農というルートがありますので、これも、やっぱりもう少し流通過程をもっと合理的にしてもらふ努力、そうしないと、やっぱり消費者まで渡ったときにそれなりに高くなってしまうので、こういうことは、やはり価格形成の中でももっと国を挙げて考えてもらふ必要はありますけれども、何ていいますか、全農悪者論っていうのは、これは外れているかなというふうに思います。ちょっと……。それで、外れてしまいましたが、何度も申し上げます。

それと、もう一つ、ミニマムアクセス米のいわゆる主食用輸入増、S B S 方式で直接 10 万 t ですか、食用は 76 万 7,000 t が限界のようですけど、S B S 方式で 10 万 t 入れているやつを、もっと 20 万 t 30 万 t と買やいいじゃないのっていうような声が出ているようでありますけれども、これもやはりおかしい話でありまして、ミニマムアクセス米の主食用輸入増で市場流通不足量を補うという前に、国内生産量の増加をやはり検討する、これはやっぱり筋ではないかなということをお願いしたいと思います。

○ 3 番 （中塚礼次郎） 今、村長のほうから相当詳しくいろいろお答えをいただいて、

私も勉強になりました点もありました。

国民の重要なお米ということで、それを守っておる農家がさらにまだ持続可能な農業を営めるためにも、こういった大きな問題で、国の問題だということがあるとは思いますが、集落なんかでも話題にして、そういった声も私らが出ていくことが必要だというふうに思いますので、今後、注目しながらやっていきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。